国立の景観とマンション

日本財政学会が東京・国立の一橋大学であった。学会では林健久先生の地方財政審議会に関する興味深い報告などがあり、新たな知見をいくつか得ることができた。国立で開催された学会なので、ぜひ訪ねたいところがあった。それは景観裁判が行われている例の大規模マンションである。

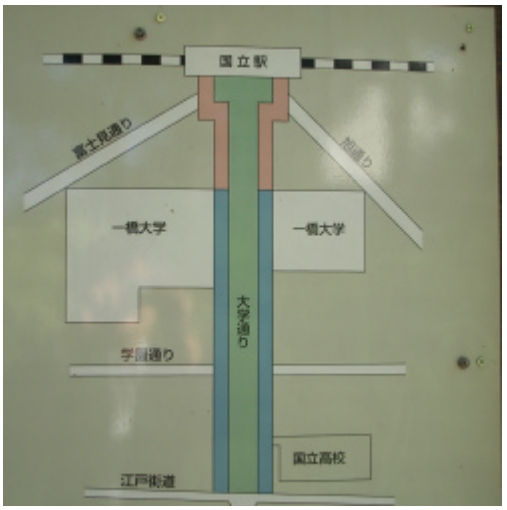
学会 2 日目の朝早く見学に行った。国立駅から緑が多くて心地よい「大学通り」を歩いた。この通りは自転車専用道もあり、よく整備されており、散歩している多くの人を見かけた。大学キャンパスから数分のところに、大規模マンションが聳え立っていた。テレビでは何回か見たことはあったが、写真を撮るために近くから眺めると、その巨大さが実感できた。綺麗な高級マンションではあるが、高層部分が美しい緑からはみ出しており、美しい街並みと調和がとれていない感じだった。

「モデルルーム公開中」という看板が立っており、入口には「取材自粛」の掲示があった。まだ係争中ではあるが、ここの住民はどのような気持ちで居住しているのか気になった。マンションの全体像を撮るために利用したのが、近くにある歩道橋であった。

あとで知ったのだが、この歩道橋は 1969 年に建設計画が持ち上がり、反対運動が起こり訴訟にもなったという。日本地域開発センターの調査報告書（2004 年 3 月）のなかに、この歩道橋事件を含めた住民運動が紹介されている。こうした伝統がマンション訴訟にも継承されているのであろうか。

（11 月 21 日　記）

国立の景観とマンション（つづき）



　せっかく写真を多く撮ったので、「国立の景観とマンション」のつづきとして、写真を紹介しておきたい。右の写真は国立駅から大学通り、一橋大学あたりの地図である。例のマンションは国立高校の前あたりにある。

　その下の写真は「大学通り」を例の歩道橋から国立駅の方に向かって撮ったものである。4 車線の真っすぐに伸びた道路であり、両脇に緑が連なり、車道と歩道の間に自転車専用道があり、すいすいと走っていく光景が見られた。その左の写真は、マンション宣伝の案内板であり、道路の両脇に桜並木がつづいており、その上に巨大な建物が浮かび上がって見える。

（11 月 21 日　記）